学友会東京支部だより

南高

発　行　和歌山県立南部高等学校
学友会東京支部
事務局　〒160-0014
東京都新宿区内藤町1-33-103
TEL 03-5919-2180
FAX 03-5919-2181

南部高校の新たなチャレンジ

和歌山県立南部高等学校　校長　内川 さやか

学友会東京支部の支部報第20号発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

まず最初に、令和４年度の入試から始まりました「食と農園科」の全国募集について、学友会の皆様には、ご協力いただき誠にありがとうございました。紙面ではございますが、一言お礼申し上げます。

コロナ禍の世の中になり、３年が経ちました。学校では、新型コロナウィルスの感染症対策を講じながら、授業や学校行事・部活動等を実施する日々が続いています。

さて、最近の南部高校の現状をご報告いたします。
まず、令和４年度の入学状況です。普通科は２クラスで５７名、食と農園科は３クラスで５７名の計１１４名です。全校生徒数は、定員６００名のところ、３０７名と大きく定員が割れている状況です。

そこで、スクールミッションを、「地域や社会の発展に貢献する、自律（自立）した人材を育成する」とし、全職員一丸となって懸命に取り組んでまいりました。

普通科の新たな取り組みとして、令和４年度入学生より、社会に貢献できる力を育むため、インターンシップや企業実習など実践的・体験的な学習活動を取り入れました。企業実習は、学年に２０人ではありますが、「デュアル基礎」２単位、「デュアル総合実習」６単位を取り入れ、地域企業と連携して、「働くことの意義を理解し、社会に貢献しようとする人材の育成」を目的とした実践的な学習活動です。

また、食と農園科では、令和４年度から農業の知識をもった調理師を育成する「調理コース」がスタートしました。定員は２０名ですが、定員を上回る志願者があり、人気のコースとなっています。その他にも、生産した農産物や加工品を、自校での販売（うめっこカフェ）に加え、地域のイベント、メルカリショップでの販売など販売ルートを拡大し、実践的・体験的な学習活動を積極的に行っています。

調理コース

製品販売

さらに、和歌山県農林大学校と連携した「わかやま農業一貫教育」、地域の小中学校と農業教育の連携・防災活動の連携など地域と連携した取り組みも行っています。

一方、部活動においても、美術部や書道部では、全国レベルで様々な賞をいただきました。また、弓道部・少林寺拳法同好会では、県大会で優勝し、全国大会へ出場することもできました。

生徒作品

職員一丸となって、様々なことにチャレンジしてきた１年でした。すぐには結果が出なくても、生徒一人一人のさらなる成長と本校の一層の発展のために、今後も精一杯取り組んでまいります。

また、南部高校の魅力を生かした教育活動を、地域に全国に発信していきたいと思っています。ホームページも新しくなり、インスタグラムやツイッターも始めました。一度見ていただければ幸いです。

学友会の皆様には今後も引き続きご協力をどうかよろしくお願いいたします。

野球日本代表を振り返って

吉田 幸夫
(東京都練馬区 在住)
1977(昭和52)年卒

向かって右端 筆者

卒業して46年が経ちました。高校時代は硬式野球部に所属して、部員全員で甲子園出場を夢に日々厳しい練習に励んでまいりました。しかし残念ながら3年生の最後の夏の県予選準決勝で敗れ、甲子園の夢は儚く散りました。

高校時代は投手としてオーバースローで投げていました。２年生の秋の県大会で新宮高校と延長18回を投げて日没再試合、翌日の午後からの再試合となりました。異変があったのは朝起きた直後でした。肩が痛くて朝一番で母に医者に連れて行ってもらい、結果は右肩甲骨にひびが入り、もう投げられる状態ではありませんでした。しかし投げないわけにはいかないので、試合の1時間前に再度医者に行き痛み止め注射を打って投げましたが、試合半ばでまた激痛が走り、結局最後まで投げましたが、結果は言わずと知れた敗戦でした。

負けた翌日、当時の畑崎監督に呼ばれ「今日から陸上部に入って練習しろ」と言われ、毎日毎日いやになるほど走ることばかりでした。津村先生が毎日のように一緒になって走ってくれたりと、色々指導してくれましたが、鬼のように見えました。やがて2ヶ月くらいで肩甲骨のひびが完治し、野球部に戻されました。

そして畑崎監督から、今日から下から投げろと言われ、3ヶ月が経って3年生の春になり、やっと公式戦でも投げられるようになりました。その頃には意外と県内でも注目される投手となり、最後の夏の県予選はベスト４で終わりました。これなら大学でもやっていけるんじゃないかと自信がついて、１つ上に先輩がいた青山学院大学に進学したのが私の第二の野球人生のスタートでした。

青山学院大学の硬式野球部は東都大学野球連盟に加盟しており、21の大学が1部から4部までで構成されていて、入学したときは2部でした。同級生、先輩の大半は全国の強豪チームからきていましたが、高校時代に培った体力・精神力のおかげで、１年生からベンチに入ることができました。

チャンスが来たのは私が3年生になった春季リーグ戦でした。私たち2部の1位が2連勝で見事に1部昇格を果たし、次の秋季リーグ戦は念願の1部リーグで戦うことになりました。その時に初めて経験した入替戦ですが、相手チームは1部での優勝経験もある専修大学でした。当大学の応援席は2万人を超える学生でいっぱいで、後から聞いた話ですが、ある教授は神宮球場で授業の出席を取るので来なさいと言われていたようです。その応援のおかげで第1戦目は私が完投させてもらい勝利し、翌日の第2戦目は中盤からリリーフとして投げて最後の打者を三振に取り試合終了。その瞬間満員の内野席から紙テープ、紙吹雪が舞い、今でも忘れられない光景です。

初めての1部での秋季リーグは、勝ち点3の8勝7敗1分けで、勝率で3位といきなりAクラス入りでした。2ヶ月間の戦いですが、16試合を戦い、私は15試合に登板し8勝6敗1分けの記録を残すことができました。投げた回数は123イニングのシーズン最多投球イニングで、未だにこの記録は破られていないようです。そのシーズンは最優秀投手賞、ベストナインをいただきました。

3年生の秋季シーズンが終わった頃から、社会人野球からの勧誘が数多くなり、最終的に昭和56年にプリンスホテルに入社しました。チャンスが来たのは入社4年目の6月でした。当時、世界最強チームと言われたキューバのナショナルチームが、8月のロス五輪に出場するために交流試合で来日しました。プリンスホテルも西武球場で試合を行い、その時は先発投手で5イニングを投げて2−1と勝利投手の権利を得ましたが、逆転されて3−5で敗れました。

その時の投球内容から8月のロス五輪の日本代表チームに選ばれました。オリンピックの参加国は8ヶ国で2つのグループに分かれ予選3試合を行い、上位2チームが決勝ラウンドに上がる方式で、最終的にそれぞれのグループで日本と韓国、アメリカと台湾の4か国が残りました。準決勝では台湾に延長10回に2−1でサヨナラ勝ち、決勝は地元アメリカに6−3の逆転勝ちで金メダルを獲得しました。

オリンピックメダル

私は予選初戦の韓国戦に7回1アウトまで無安打に抑えましたが、初ヒットを打たれて降板、リリーフに読売巨人軍で活躍された宮本和知選手が抑え、更にストッパーにヤクルトスワローズの伊東昭光投手が締めくくり、3投手の完封リレーで2−0で勝利。その次は準決勝の台湾戦で先発し、延長10回表1アウト1塁で降板し、そのあとも宮本投手、伊東投手で抑えて10回裏にサヨナラ勝ち。翌日の決勝戦では今までとは逆パターンで先発伊東投手、中継ぎ宮本投手、そして7回の2アウト満塁からは私が救援、抑え。6万人の観衆の前で、ドジャーススタジアムで3試合も投げさせて貰えた嬉しさが、相手チームより少し勝っていたと思うし、ナインもお互いに信頼しあっていたチームワークで勝ち獲った金メダルでした。

私が一番自慢したいのは、金メダルを獲れたことは勿論ですが、選手20名の内和歌山県の高校出身者が4人もいた事でした。更に4人の共通は公立高校で、南部高、箕島高、市和商、新宮商です。

自分の夢をもって諦めないで野球を続けられた原点は、南部高校野球部で3年間やり通した事だと今でも自負しております。大学時代からチームメイトや他校からも、あの体力は化け物だと言われましたが、南部高校時代の厳しい練習に耐え抜いた体力からすれば、大学時代の練習量は何ともありません。高校2年生までは中芳養から南部高校まで自転車で、上南部経由で山を越えて通学していた環境も私の基礎体力や精神力を鍛えてくれました。また、疲労骨折で野球を断念していたかも知れない時に、投げ方をオーバースローからアンダースローに変えてくれた畑崎監督、その時に下半身を鍛えるため陸上部で指導していただいた津村先生、励ましあってくれたチームメイト、そして丈夫な体に育てて貰った両親に感謝しています。

日本一の梅の里「紀州みなべ」で
梅農家ならではの
梅作り体験をしよう！
日本一の梅の里・紀州みなべ梅林に隣接する、ぷらむ工房では、工場見学から、梅干し・梅ジャム・梅ジュース作りなど、さまざまな梅作りが体験できます。
通信販売・体験のご予約 TEL 0120-39-2406
WEB サイト https://plumkoubou.jp/shop/taiken
オンラインショップ https://www.plumkoubou.co.jp

わたしの家は梅農家・ぷらむ工房®
〒645-0022 和歌山県日高郡みなべ町晩稲 1187 番地
株式会社 岩本食品

梅太郎
卸部門 0120-10-3682
〒143-0024 東京都大田区中央6-30-1
株式会社ウメタ東京営業所
http://wwwumeta.co.jp
お店 0120-10-3504
株式会社梅翁園東京直売店
営業時間:AM10:00〜PM5:00 お休み:土・日曜日 祝日

CUBE with me

中西 雅洋
(神奈川県二宮町 在住)
1978(昭和53)年卒

南部高校学友会の皆様、ご無沙汰しています。

私は、現在、東京の品川区に本社を置くソフトウェア開発の会社、キューブシステム（CUBESYSTEM）の社長をやっています。みなさんが普段使われるスマホのアプリもソフトウェアですが、当社は企業向けにソフトウェアを提供しています。企業が事業を行うためのさまざまな事務処理やデータの分析など、事業活動を支援するソフトウェアを開発し提供しています。

2022年7月、当社は創業50周年を迎えました。この記念日当日、新聞広告に、「CUBE With YOU!」のメッセージを発信しました。このフレーズの「CUBE」は当社のこと、「YOU」は、全てのステークホルダーの方々のことです。つまり、株主・投資家の方々、お客さま、社員、パートナー会社様などの方々との絆を大切にし、常に寄り添っていくという思いを込めたものです。このメッセージを全国紙にも掲載しましたが、くわえて紀伊民報にも掲載しました。心の中には、生まれ育ったみなべの地、その時々の方がたも、「with You!」と言いたいと思っています。

私は、社内の50周年の記念式典で、当社が持続的に成長し、社会に貢献し続けられる会社であるためには、WellBeing（ウェルビーイング）が重要であると社員に話しました。ウェルビーイングな状態、直訳すると「とてもいい状態」です。心身ともに健康で意欲が持てる職務につき、その職務を通じて自身の能力などの成長を感じ、成果を上げていく姿。そして、その成果の達成を、志を同じくするチームの仲間たちと喜び合い、共に讃えあえる状態になっていて、その成果に応じた報酬を受け取ること。そして、所属する会社での職務を果たすとともに、家庭での生活とも、社会の中での生活が両立している状態になっていること。そうなることを目指そうと語りかけました。私自身がこういう思いを語り、聞いてくれている社員が共感し、意識して自らの行動や発言に繋げてくれれば、必ず皆に浸透してくる、そう信じています。会社である以上、業績は大事です。財務的な価値はしっかり実現していかなければいけませんが、その成果と同じくらい大事なこととして、こういう会社でありたいという非財務的な価値も目標として共有し取り組んでいきたいと思っています。

みなさんもお感じの通り、社会は目まぐるしく変化しています。社会環境としては、この2、3年はコロナ禍で、とても厳しい行動制限がなされました。感染に対する恐怖や不安、予防するために外出を控える、集まって何かをすることを控える、学校に行かずにオンランで授業を受ける、色々なことを対策し受け入れて過ごしてきました。最初は不安が先行していましたが、徐々に普段当たり前にできていたことができないことに不満を感じるようになった人も多かったのではと思います。反面、ここ数年の中で、色々便利になってよかったこともたくさんありました。便利になったことの背景には、多くの企業でデジタル技術を積極的に活用し、競争力強化に向けた取り組みが進められているからです。こういう取り組みをDX（Digital Transformation、デジタルトランスフォーメーション）と言います。デジタル技術を使って変革するという取り組みです。変革には、3つの段階、特徴があると考えれば理解しやすいと思います。まず第一段階、デジタル技術を使って業務の手順を短縮する、効率化する（プロセス変革）、次に、デジタル技術を活用して今までなかったサービス、事業を生み出す（ビジネス変革）。ここまでは、1企業の中で実践されていることですが、次の段階では、企業をまたがって社会生活という次元で行われる変革（ソーシャル・バリューチェーン変革）になります。例えば、AIを使った顔認証、デリバリーサービス、そして、ソーシャルという観点では、マイナンバーカードを活用した取り組みなどです。このような取り組みが盛んに行われています。コロナ禍は、皮肉にも、この取り組みを大きく加速しました。人との接触機会を減らす、移動を減らす、そういう理由から、テレワークの導入、キャッシュレスなどの決済手段の多様化、さらには、物流サービスにおけるラストワンマイルの競争激化など、皆さんの日常生活の中でも目に見えて変わっていったのではと思います。取り扱う技術も変化し、働く環境も変化してきています。こういう環境に置かれているので、私が関わっているソフトウェア開発、ITサービスへの期待も大きいと感じていますし、果たすべき役割の重要性も感じます。いままでと変わらず励んでいきたいと思います。

プロフィール
1958年和歌山県みなべ町生まれ。
1978年南部高校卒業、1982年京都大学卒業後、株式会社野村総合研究所に入社、2017年より株式会社キューブシステム、執行役員に就任。2018年常務執行役員、2020年6月より現職、株式会社キューブシステム代表取締役社長執行役員兼CDO。

南部高校花壇「謎の文字刻印石」

水島 大二
(和歌山市 在住)
1965(昭和40)年卒

長く城郭に関心を抱いていると「石」を見れば決まって「矢穴」や「刻印」を探したくなる。城の石垣には多くみられるもので、それらによって、おおよその年代を知ることも可能となり、また築城のメッセージが刻まれていることもある。

令和3（2021）年の秋、県の文化財関係者に誘われて南部高校へ行った。目的は、古墳の石棺が地歴部部室に保管されていたとの卒業生の証言で、それを探しに行くことであった。同行する理由は、単に南部高校卒業生だからということに過ぎない。いずれにせよ目的物は元部室になく、花壇に使用されている可能性を考えて、花壇の石を見て回ることになった。しかし、それらしい石は見つからなかったが、奇妙な石に目が引き付けられた。その石の上面と側面に文字が彫られ、何かのメッージのように読み取れた。

同4年10月、学校の許可を経て、チョークで文字をなぞってみることにした。【写真】
この方法で大いに期待をしたのだが、風化や剝離部分が多く、浮かんだ文字から内容は読み取れず、思うような結果には至らなかった。
そこで、この類に詳しい和歌山県立博物館の学芸員に判読をお願いした。その結果、全体を読み切れなかったものの、側面の内容（・・・国もたてをめでたい君 万歳し）から当時の世相を記したものであることが分かった。【表】

冒頭の明治二十八年（1895）は、前年に起きた日清戦争を終えた年で、この年の様子を『埴田区誌』（浜野大吉著　埴田区発行　昭和37年）に、「町内戦勝祝賀として各字（あざ）の余興、仮装行列あり我区は網船にて仮装軍艦をつくり凱旋兵の岩橋正二郎氏総司令官となり、水兵として土井嘉平、天野安吉、桂林蔵、長沢安吉氏及予も搭乗、岩橋氏作曲の「赤いも」の軍歌を唄い町内を廻り秀逸の賛辞を拍した」また「日清戦争に於ける我区の出征軍人」と題した項に、活躍した諸氏の概要が書かれたあとに、山田六之助、稲見菊松、中川栄吉の三氏が無事凱旋された旨も書かれていることから日清戦争にまつわる当時の歴史を語る石であることは分かった。しかし、なぜ、花壇（昭和46年3月作庭と記念碑にある）の石に混じっているのか、元はどこに置かれていたものかは謎のままである。

この石に関して、ご存知の方がおられたらご教示願いたいものである。（2022.11月記）

上面
「明治二十八年
軍勝
日の本？の印
廿八もしの九
〇九栄大き
□」

側面
「　　末廣山
国茂（も）當（た）て
をめてた（い）
君万歳（し）
・・・・・・・
（埋もれ判別不能）」

SQF認証:No.55113
2020年12月取得
紀州南高梅
一粒入魂®
紀州南高梅
南紀梅干株式会社
Nanki Umeboshi Co.,Ltd.
〒645-0022　和歌山県日高郡みなべ町晩稲1225-5
TEL:0739-74-2055　FAX:0739-74-3175
www.nankiumeboshi.co.jp
梅のことなら
梅バンク
UmeBank®

北海道バイク一人旅

汐崎 啓治
（みなべ町東岩代 在住）
1971（昭和46）年卒

10年前に退職してから、バイクと写真を趣味として楽しんでいます。写真はかなり前からの趣味で、バイクは高校の時に乗ったきりだったのですが、友人の勧めもあって退職を機に買いました。

私にバイクを勧めてくれた友人はかなり以前からのバイク好きで、紀伊半島の山深い林道をくまなく走ってきた方で、私は退職してからよく県内の林道や景勝地に連れて行ってもらいました。

県内を一通り走り終えたら今度は県外にも行ってみたくなり、5年前に初めて北海道ソロキャンプツーリングに行ってきました。バイクにキャンプ道具を積み込んで、キャンプ地に泊まりながら旅をするのです。この時は期待半分、不安半分で行こうか行くまいか悩みに悩んで、最後はエイヤーで舞鶴発小樽行きのフェリーに乗ったのでした。天候にも恵まれ2週間かけて北海道をほぼ一周してきました。

そして今年7月に再び北海道へ行ってきました。今度は北海道の北の端にある礼文島をメインにした旅です。礼文島は小さな島ですが、山の尾根を走っている道路からの眺めが素晴らしく、また緯度が高いため低い山なのに色んな高山植物が咲いていました。礼文島を堪能した後、北海道の景勝地を巡って帰ってきました。

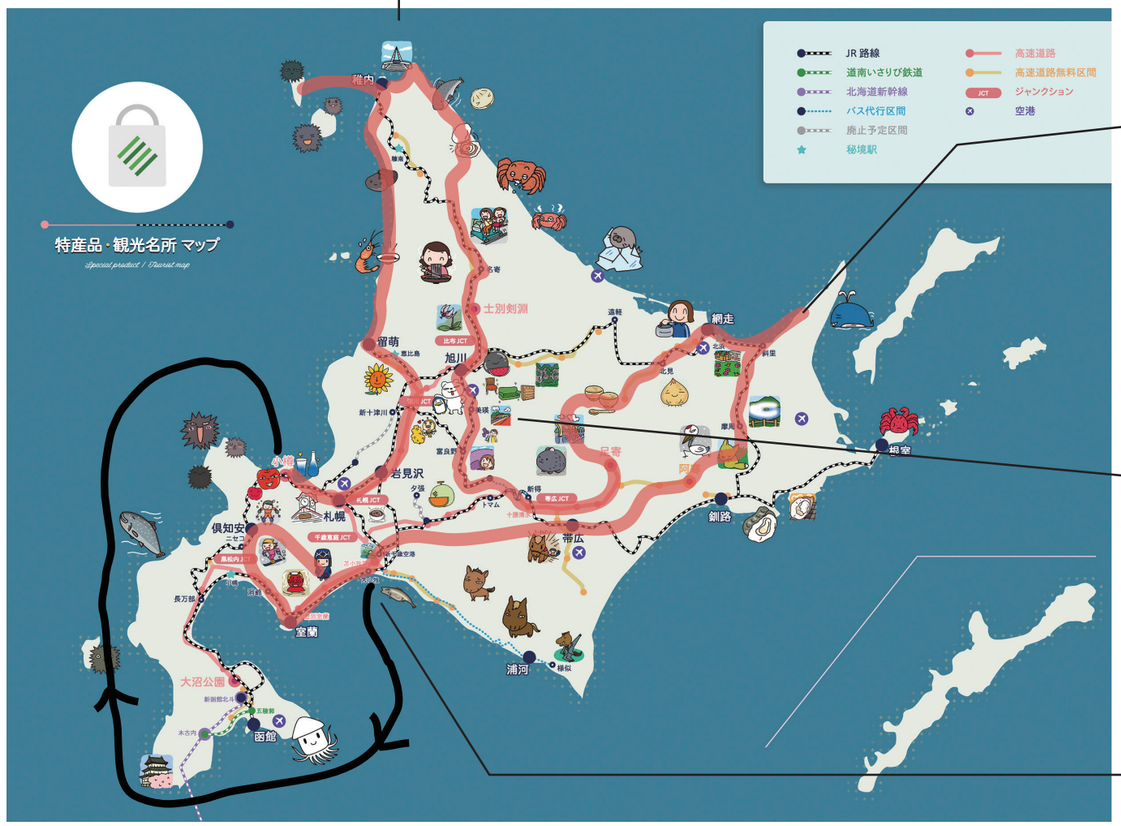
この度、学友会からこの時のレポートを書いて欲しいとの依頼があったので投稿させていただきました。

ただ、北海道から帰る2日前にカメラの操作ミスで、撮った写真を全て消してしまいました。幸いにも旅先から南高同窓生に何度かLINEで送った写真がスマホに残っていたのでご覧ください。

礼文島スコトン岬

スコトン岬への道

満里町さくらの滝サクラマスの遡上



美瑛四季彩の丘

苫小牧マルトマ食堂
マルトマ丼

自宅出発時のバイク

「源平ゆかりの地を尋ねて」

磯崎 美佐子
（みなべ町埴田 在住）
1961(昭和36)年卒

定年退職後、念願の熊野古道（中辺路の部）を踏破し、続いて西国三十三ヶ所札所参拝も満願した。今は「源平ゆかりの地巡り」にはまっている。義仲寺（滋賀県）、須磨寺（神戸市）、神護寺（京都府）はもう一度訪れたい古寺である。

義仲寺は木曽義仲と芭蕉の墓所である。こじんまりとして、静かで落ちついたお寺であった。受付で住所・氏名を記入すると、「私もみなべ町出身ですよ」と声をかけてくださった方、A さん。驚いた。奇遇であった。当時 A さんは義仲寺で執事をされていた。寺内を詳しく丁寧に案内していただいたことに感謝の気持ちで一杯である。

義仲といえば、倶利伽羅峠の戦い、火牛の計、後白河法皇との不和などが連想され、義仲のイメージを私なりに描いている。勇猛な武将は今、立派な宝篋印塔の下で静かに眠っている。「お疲れさまでした」という思いで、墓前で手を合わせた。翁堂には伊藤若冲作 15 枚の天井画が貼り詰められていた。みごとであった。歴史上の大物 義仲、日本史上最高の俳諧師 芭蕉、江戸時代絵画界の大家 伊藤若冲という三人の偉大なる人々が一堂に会するという最高に贅沢な空間を持つ義仲寺。良い場所で良い時間を過ごすことができた。

須磨寺は笛の名人 平敦盛のゆかりのお寺である。敦盛は一の谷合戦で源氏方の熊谷直実に討たれた。山内に入ると、尋常小学唱歌『青葉の笛』のメロディが流れていた。『青葉の笛』は母がよく口ずさんでいて、私の大好きな歌である。

一ノ谷の いくさ破れ 打たれし平家の公達あわれ
暁寒き 須磨の嵐に聞こえしは これか青葉の笛

討死の前に『青葉の笛』を心ゆくまで吹いたという敦盛。若き敦盛の死を悼みながら歌った。いつとても涙を誘われる歌である。殺し合わなければならない戦の世の無常を感じながら須磨寺をあとにした。

神護寺は紅葉で有名な古刹である。350 段の急な石段は 70 歳後半の身にはこたえた。このお寺にも平家公達の悲話がある。

源平合戦が終わって平家残党狩りが始まり、平家最後の末裔 六代御前（清盛のひ孫）がねらわれた。神護寺の僧・文覚上人が頼朝に嘆願し、助命され、六代はこの寺で剃髪し妙覚と名のった。しかし、その後 10 年目に斬首された。26 歳であった。六代を最後に、清盛の嫡流は完全に断絶した。

時の権力者にとって権力を維持するための常套手段であったとはいえ、あまりにも残忍である。やりきれない気持ちで山を降りた。

新型コロナウイルス感染症の心配がなくなれば、直ちにゆかりの地巡りを再開したい。

まずは勧進帳の舞台安宅の関跡へ。義経と弁慶に関所通過を許可した関守・富樫は「九郎殿はよいご家来（弁慶）をお持ちじゃ」とつぶやいたそうだ。富樫の優しさを偲びたい。

義仲寺

須磨寺

神護寺

「祖父の思い出」

福本 節子
（和歌山県田辺市 在住）
1970(昭和45)年卒

東京銀座で、友人 前山弓子さんの書の個展をお手伝いしたことで、南部高校の先輩や同級生とお話をすることができ嬉しく思っています。幼なじみの三本陽子さんから、私の祖父　尾崎光之助のことを書いて欲しいとの思ってもみなかった話にびっくりし戸惑いました。

私は外孫なので、たまに祖父の家に行くと、いつも喜んでくれ優しく迎えてくれるおじいちゃんでした。祖父は背が高くて凛とした人でした。祖父から「おじいちゃんは貝や蟹の研究をしているんやで。」と聞いたことがなかったので、私はそのことを全く知らなかった。ただ祖父の部屋には大きな蟹の標本が額に入れられていくつも飾っていました。他に亀や貝やサンゴなどたくさん置いていて本やノートもいっぱい積まれていました。私は蟹とかが苦手で小さい頃はその部屋にいるのが怖かったことを覚えています。

貝や蟹などの研究をして世界的な新種を発見し、昭和天皇に仕えていた博士が研究資料を見せて欲しいと祖父の家まで来られたり、昭和天皇の書物の中に祖父の研究資料が載っていたりしたことを、私は大きくなるにつれて知るようになりました。

また、いつも下を向いて海岸を歩いている変な人がいると言われたこともあったそうです。私は祖父といろんな話をしましたが、貝や蟹のことを祖父から聞いた記憶はありません。今思えば祖父に貝や蟹の話をたくさん聞いておけばよかったです。きっと祖父は喜んで教えてくれたと思います。この件で弟に話をすると、「祖父は標本の説明も資料も全部英語で書いていた。それを見たときはとても驚いた。祖父は本当にすごい人だと思った。」と言っていました。弟から聞くまで英語で書かれていたことは知りませんでした。あの時代に英語をどのように学んだのか、祖父はすごく努力したのだと、祖父のすごさを再認識しました。

学友会からご依頼をいただいたことで祖父のことを詳しく調べ、知らなかった祖父の偉大さを知ることができましたこと、感謝しています。本当にありがとうございました。

郷土生物研究家　尾崎（おざき） 光之助（みつのすけ）

明治３２年（１８９９）～昭和４３年（１９６８）
みなべ町生まれ。

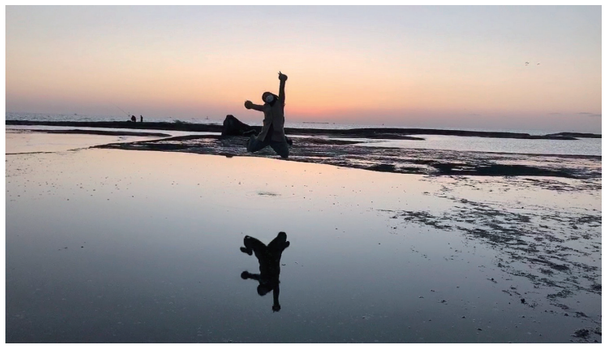
海洋生物学の発展に大きく寄与した郷土生物研究家。大正４年（1915）に南部実業学校を卒業、その後農業に従事しながら独学で貝やカニなどの研究を始める。珍しいものを見つけては図鑑等で調べ、その結果をスケッチに残し、観察記録とともに標本を専門家の元に送り、その正体を明らかにしていった。その中の一つに、オザキトガリカニムシの発見がある。これは、海岸の岩の間を住みかにする小さなクモの仲間で、天保４年（1833）紀州藩の博物学者小原桃洞が岩を食べて生きている「食岩虫」として報告して以来、どこからも発見されたことのない謎の虫とされていた。光之助は、サンゴやヒトデ、貝などの生物も積極的に集め、特にソフトコーラルの一種ミナベトサカは、学名をミナベア・オザキイ（Minabea ozakii Utinomi）といい、南部の地名と尾崎の名を冠したサンゴとして専門家の間では世界的に有名である。また、カニの研究では、キイコシマガニ、オザキヒシガニ、ヤマトオサチラ、ミナベケブカガニ、コウガイメナガガザミの５新種を発見、終生で記録したカニは、当時の７００種中の半数以上に上っている。尾崎を頼って全国から訪れた研究者も多く、紀伊南部沖が海洋生物の宝庫であることを明らかにすることに多大な貢献をした。

ミニ・ギャラリー

南部高校卒業生の熊本茂美様（田辺市在住）が
日本各地で撮影された景色をご覧ください。

鍋ケ滝（熊本県小国町）

鹿島に沈む夕日（みなべ町）



海面に写る姿（田辺市天神崎）

ハヤブサ
（松江フォーゲルパーク）

二重の虹（石川県珠洲市）

アサギマダラ（上富田町）

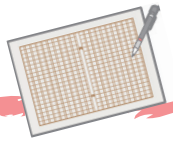
コウノトリ（田辺市文里）

動鳴気峡の夜桜（田辺市稲荷町）

第11回南高学友会東京支部総会・懇親会開催決定

日時：令和5年7月9日（日）11：30～14：30
場所：第一ホテル両国

令和元年6月以来の開催です　懐かしい人達と昔話でお楽しみください



支部だよりの原稿を集めています。お気軽にご応募を！

学友会では会員の親睦に役立つ内容に心掛け、支部だより作りをしております。
テーマは問いません。文字数400字詰め原稿用紙で1～4枚くらい（ワード編集、手書き可）
写真、絵画、書、短歌、俳句、その他趣味での作品でも結構です。
送付先は事務局楠本宛でお願いします。

事務局から

★ 賛助会員新規入会 ★

今回次の方が入会してくださいました。
嬉しいですね。

岩﨑 浩三 様　昭和46年卒

竹中 美晴 様・坂本 龍 様

お二人の方々よりご寄付をいただきました。
心からお礼申し上げます。
有効に活用させていただきます。

▼ 訃報 ▼

宮下 典子 様　がご逝去されました。
長年東京支部のためにご協力いただき感謝申し上げますとともに、
謹んでご冥福をお祈りいたします。　合掌

東京支部会員の中村 妃佐子さんが下記の日程で個展を開催されますのでお知らせします。

○ **7月19日から25日**　東京上野松坂屋デパート　中村妃佐子日本画展
○ **12月7日から20日**　新宿京王デパート　中村妃佐子日本画特集

★開催について中村さんの一言★
描き始めて50年近くなりますが、明るくて自然豊かなみなべで育ったことが、
作品に大きく影響していると感じています。
のんびり、ほのぼのがみなさまに伝わりましたら幸せです。

編集後記

長かったコロナ禍からやっと解放されるような気がします。
マスクを付けるのが当たり前のような生活から以前のようなすっきりした生活に戻り、
気持ちが晴れるような気がします。学友会も東京支部総会・懇親会をやっと開催できる状況になりました。
会員のみなさまぜひ総会・懇親会にご参加ください。コロナ感染予防対策は十分に取るようにいたします。
開催会場の第一ホテル両国は初めての場所で、会員の吉田 幸夫様が社長をされています。
みなさまにお会いできるのを東京支部役員一同楽しみにしております。

（事務局　楠本）

編集スタッフ

楠本 邦一（TEL・FAX 047-341-9282）齋藤 文子　森下 武子　三本 陽子